

60

102

ペストに就て

柳下 土興

世人のペストを恐るゝは歴史上の恐怖にして實際は  
 恐るべきものに非ず  
 ペストの傳染の機會は容易に遭遇するものに非ず  
 ペストの傳播は虎列拉赤痢に比して優勢ならざる  
 ペストの撲滅は難事に非ざるなり

059456-000-5

60-102

ペストに就て

柳下 土興/著

M34

CBF-0325

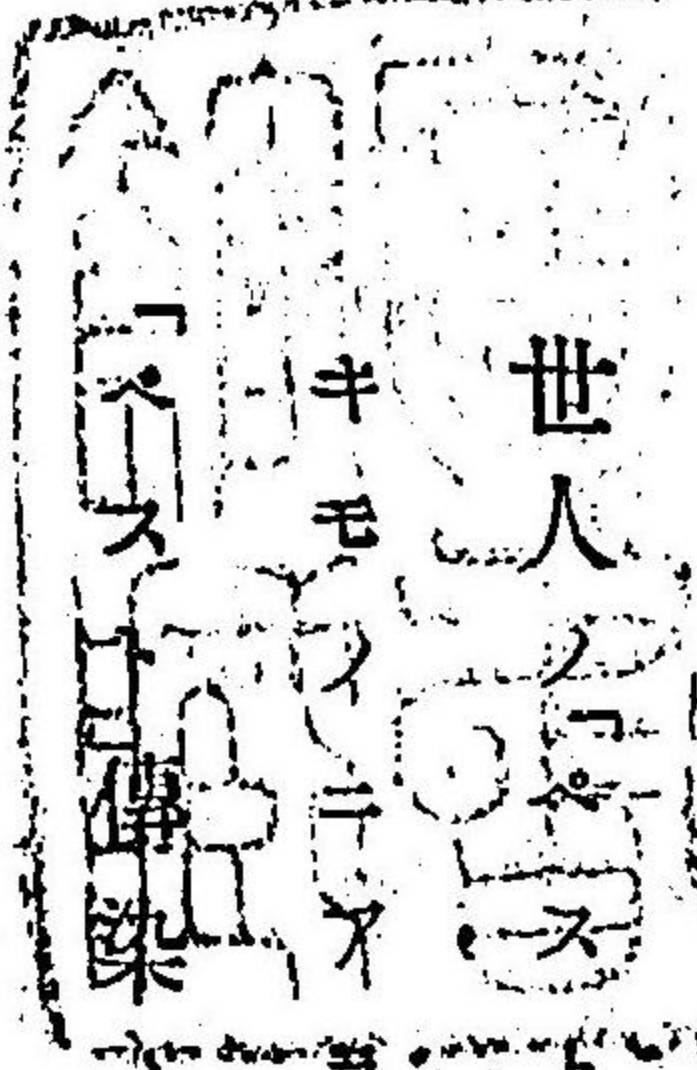


# ペスト成就テ

柳下士興

世人ノペストヲ恐ル、ハ歴史上ノ恐怖ニシテ實際ハ恐ルベ

キモノニアラズ



「ペスト」ノ傳播ハ虎列拉赤痢ニ比シテ優勢ナラズ

「ペスト」撲滅ハ難事ニアラザルナリ

去ル三十二年ノ末ペストノ我内地ニ侵襲セシ以來官民ノ驚愕ハ一形ナラズシテ尋常悪疫ニ對スルノ類ニアラズ當路者ハ殆ンド其全力ヲ擧ゲテ之ガ豫防撲滅ニ焦慮シ官治ト自治ト共ニ之レニ要スル費目ノ支出ニ吝ナラズシテ船車檢疫ニ健康診斷ニハフキソ液豫防注射ニ交通遮斷ニ一トシテ試ミラレザルナク或ハ鼠族



二  
捕獲ヲ實施シ或ハ都市ニ清潔法ヲ再三嚴行シ患者アラバナニ直  
病院ニ收容スルハ勿論其家族乃至附近ノ者ヲモ隔離所ニ移轉シ  
テ病毒ノ散逸ヲ防ギ衣服家什ノ消毒ハ固ヨリ天井ヲ剝ギ床板ヲ  
毀テ商品ヲ燒却スル等苟クモ病毒汚染ノ疑アルモノハ悉ク消毒  
撲滅ノ措置ヲ盡サル無シ是レ我國從來ノ豫防措置上ニ於テ未  
ダ見ザル所之ヲ歐米各國ガ取ル所ニ比スルモ其嚴密周到ノ程度  
亦敢テ一步ヲ讓ルナシト謂フモ可ナリ然ルニ病毒ハ宛トシテ是  
等ノ措置ニ踟躕セザルガ如ク自由ニ其關門ヲ潜リテ滋蔓シ現ニ  
大阪ノ如キハ漸次病毒汚染ノ區域ヲ擴張シテ今ヤ病根ノ牢ク拔  
ク能ハザルニ至リ其四通八達ノ要衝ヲ扼シテ病毒傳播ノ機會ア  
ルニ乘ジ更ニ濱松或ハ湯淺ノ地ヲ侵襲シテ今後尙ホ底止スル所  
ヲ知ラザラントス而シテ之ガ豫防撲滅ノ方法ヲ實施センガ爲ニ

消費シタル金額ヲ算スレバ政府ト自治體トノ支出ニカ、ルモノ  
既ニ百萬圓餘ノ多キニ達シ更ニ間接ニ蒙リタル通商貿易殖産工  
業上等ニ於ケル損失ヲ加フレバ之レガ爲ニ國家ノ資力ヲ消散シ  
タルモノ殆ンド測ル可ラザルモノ有リ而シテ爾來一ケ年全國中  
ニ於ケル罹病者ノ總數ハ僅々二百有餘ニ過ギズ之レヲ毎年幾萬  
ノ患者ヲ出セル赤痢ニ比スレバ其ノ傳播ノ緩急實ニ霄壤ノ差ア  
ルモノト謂ハザルベカラズ此ノ比較的微弱ナル病毒ニ對シ却テ  
巨大ナル豫防費ヲ消費スルニモ拘ラズ未ダ克ク撲滅ノ好果ヲ收  
ムルコト能ハザル所以ノモノハ何ゾヤ他ナシ是レ傳染病學ノ原  
則ニ從ヒテ其病毒ノ來襲傳播繁殖感染等ノ狀態ヲ顧ミ之ヲ學理  
ト實驗トニ徴シ以テ豫防撲滅ノ方法及實施ノ順序緩急輕重ヲ謀  
ラザルニ在リ其過不及宜シキヲ得ザルニ在リ假令今日臨時豫防

機關ノ新設ヲ見ルト雖モ其採ル所依然トシテ如斯其今後ニ於ケル結果ノ如何ハ云ハズシテ知ルベキノミ當局者ハ或ハ之レガ辨明ヲ爲シテ云ハン爾來一ケ年ノ流行ニ於テ僅々二百有餘名ノ患者ヲ出スニ過ギザリシハ畢竟豫防措置ノ功力ニ外ナラズト然レドモ此ノ辨明ハ殆ンド何等ノ價值ナキモノナリ何トナレバ既往病毒蔓延ノ狀ハ上述ノ如ク事實上ニ何等豫防措置ノ功能ヲ明示スルコト能ハザレバナリ況ンヤ支那印度歐米人等ノ住居ハ概シテ隱暗ニシテ空氣ノ流通光線ノ射入ニ不適當ナル構造ナレバ病菌ノ蕃殖ニ適スルト雖モ本邦及ビ南洋諸島ノ如キハ之レニ反シテ陽開セル構造ナルガ故ニ繁殖モ從テ微弱ナルヲヤ蓋シ今回ノペスト豫防ノ措置ガ徒ラニ嚴重ナリシハ主トシテ該疫ガ有スル歴史ニ恐怖シタルニ因ラズンバアラズ即チ往昔殆ンド全世界ヲ

舉ゲテ慘憺ノ光景ニ陥ラシメシペストノ歴史ト此レニ由リテ甚シク恐怖心ヲ傳ヘシ歐米人ガ同疫ニ對スル豫防措置トハ我が國民ヲシテ未ダ實驗セザルニ先ダテ恐怖ノ念ヲ盛ナラシメ且ツ主務者ハ一面此ノ恐怖心ニ乘シテ私ニ計ル所アリ更ニ其ノ聲ヲ大ニシテ益々同疫ノ猛烈無比ヲ揚言シタルヨリ終ニ今日ノ結果ヲ致セルニ外ナラシ是レ聊カ水禽ノ驚キ起ツニ恐レ馬ヲ逆ニシテ走リシ滑稽ニ類スル無キニアラズ今日余輩ガ實驗シ得タル所ニヨレバ其ノ歴史ハ如何トモアレ我國ニ於ケルペストハ事實上恐ルベキモノニアラズ其繁殖傳播ノ薄弱ナルコト赤痢ニ比シテ幾百分ノ一ニモ適ラザルナリ之レヲ以テ今直チニペストノ歴史ヲ抹煞スルモノニアラズト雖モ其歴史ヲ有スルガ故ニ今日ノ事實ヲ抹煞ズルヲ得ザルベシ但シ余輩ノ見ル所ヲ以テスレバ往昔

ストノ猛力突進シ歐洲ヲ席卷シタルハ當時衛生未開ノ自カラ然  
 カラシメタルニ因スルコト猶ホ我國安政年間ニ於ケル虎列刺ノ  
 猖獗ヲ極メタルト一般ナリシナラン而シテ衛生設備ノ進歩ヲ爲  
 レタル今日ノ歐米諸國ガ再ビ彼ノ猛毒ニ侵サル、コトナク今ヤ  
 該疫ヲ稱シテ野蠻病トナスニ至レルハ又右ノ反證ニアラザル無  
 シトセンヤ即チ既往ノ歴史ニ有セルペストノ暴威ハ衛生狀態ノ  
 進歩セル今日ニ於テ最早之レヲ再ビスル能ハザルモノニシテ我  
 ガ國ノ衛生事業ハ未ダ歐米ニ及バザルモ尙ホ且ツペストヲシテ  
 爾カク恐ルベキ暴力ヲ逞フセシムルニハ至ラザルノ設備ナキニ  
 アラザルナリ  
 抑モペストノ侵襲傳播ハ身體ノ内部若クハ衣服等ノ外部ニ病毒  
 ナ包藏シ汚染シタル者ノ交通病毒ニ汚染シタル貨物等ノ輸入及

ビ病鼠ノ傳送等ヨリセラル其病毒ノ繁殖滋蔓スルハ動物ノ體內  
 ニ於テ殊ニ死後最モ盛ニ又住居隱暗ニシテ不潔濕潤ノ場所ニ於  
 テスルモ容易ニ機會ヲ得ザルノ事實アリ而シテ該病毒ノ人體ニ  
 侵入スベキ徑路ハ專ラ皮膚及ビ鼻口腔粘膜ノ創傷ヨリシ其他ノ  
 部分ヨリシテ感染スルハ頗ル稀有ニ屬ス又病毒ノ排泄ハ肺ペス  
 トニアリテハ容易ニ呼氣ニヨリテ逸出スルモ他ノ諸症ニ至リテ  
 ハ體外排出ノ機會甚ダ容易ナラザルアリ故ニ人ト人トノ傳染ハ  
 肺ペストヲ除クノ他ハ未ダ一回モ事實ヲ發見セザリキ但ダ此間  
 最有力ナル媒介トナリテ人類間ニ病毒ヲ傳播セシムルモノハ鼠  
 族間ニ於ケル同疫ノ流行アルノミ是ヲ以テ該疫ハ直接人類間ノ  
 傳染病ト云ハンヨリ寧ロペスト病鼠ヨリ排泄セシ病毒ヲ介シテ  
 人類間ニ副發スル一種ノ病類トナスベキナリ而シテ此ノ鼠族間

ノ流行ヨリ來レル人類感染ノ機會モ亦容易ニ生ズルモノニ非ラズ是レ該疫ノ流行ガ一部ニ限局シテ容易ニ傳播セザル所以ナリ現ニ神戸市静岡縣濱松町和歌山縣有田郡湯淺町乃至大阪市ノ上ニ見ルモ皆以テ之レヲ證スベシ就中大阪市ニ於ケル病毒汚染ノ區域ハ稍々廣シト雖モ其程度ハ頗ル稀薄ニシテ從ツテ其傳播モ亦頗ル緩慢ナルヲ認ム其病毒ノ性質以テ知ルベキノミ果シテ如是トスレバ今日迄嚴行セシ豫防措置ハ恐ク適當ノ方法ナリト云フ可ラズ其所得ト損失トヲ顧ミレバ寧ロ徒ラニ騷擾シテ容易ナラザル國家ノ資力ヲ徒糜セシカノ憾ミアリ況ヤ既往ノ措置往々要領ヲ失シテ實功ノ著シカラザルヲヤ若シ今日ニシテ之ヲ改メズ依然前日ノ法ヲ株守セバ以後ニ於ケル國家ノ損失ハ更ニ何處ニカ底止スルヲ知ラン豈ニ黙々看過スベキノ問題ナランヤ

夫レ然リ故ニ該疫ノ豫防措置ハ其客タル人類間ノ流行ニ見テ之レガ撲滅ノ方法ヲ厲行センヨリハ寧ロ其主タル鼠族ノ流行ニ向ツテ主力ヲ注グヲ順序トスベキナリ左ニ其樞要ナル事項ヲ列舉センニ

一、人類ノベスト病ハ鼠族間ノ流行ヨリ來ルコト爭フベカラザル事實ナルヲ以テ一般防疫ノ原則ニ基キ早期ニ其病毒ヲ發見シ人類間ニ副發スルニ先ダテ之レヲ撲滅スルニハ專ラ力ヲ鼯鼠ノ發見ニ致スベシ斯クシテ若シ菌學上ベスト菌ヲ探顯シタルトキハ直チニ其ノ部落ノ驅鼠ヲ嚴行シ且ツ峻嚴ナル豫防消毒ヲ斷行スベシ但シ岐阜縣ニ於テハ夙ニ鼯鼠ノ搜索ニ留意シ其停車場附近ニ鼯鼠ヲ發見シ鏡檢上ベスト菌ヲ認ムルヤ直チニ全力ヲ盡シテ鼠族ヲ驅除シ消毒清潔ノ二法ヲ厲行シタルノ結果ハ人類ニ及

ボサズシテ撲滅シタリキ實ニ是レ等豫防ノ好成绩ヲ得タルモノト稱スベキナリ若シ夫レ湯淺町ノ如キモベスト豫防ノ唯一手段トシテ常ニ斃鼠ノ搜索ヲ嚴重ニ實行シタランニハ今回ノ流行ハ免レシナラン或ハ云フ斃鼠ノ搜索ハ至難ノ業ニシテ到底實施ニ堪ヘザル所ナリト然レドモ鼠族ニ由テ散逸シタル病毒ノ爲ニ汚染シタル土地ニ於テハベスト患者ノ發見ト共ニ患家及ビ其ノ附近ニベスト斃鼠ヲ發見スルハ毎回ノコトニ屬ス何ゾ必ズシモ其搜索ヲ以テ至難ト爲サンヤ其要領ハ左ノ如シ

(イ) ベスト流行地ト貨物運輸上交通ノ關係アル港灣及停車場所屬倉庫及ビ諸般ノ製造所等ニ於テハ間斷ナク斃鼠ヲ搜索シ鼠族ヲ捕獲シテ細菌検査ヲ爲シベスト菌ノ有無ニ注意スルコト

(ロ) 個人ハ勿論衛生組合ニ於テハ毎日一回各自斃鼠ノ有無ヲ搜查シ之レヲ發見シタルトキハ猶豫ナク市區役所町村役場又ハ警察署若クハ巡查派出所ニ携帯スルコト

(ハ) ベスト患者死者ヲ發見シ其ノ傳染ノ系統詳ナラザルトキ又ハ有菌斃鼠ヲ發顯シタルトキハ人體ニ危害ヲ及ボサザル總テノ方法ヲ盡シ其所在ノ部落ハ勿論可成的廣キ範圍内ニ於テ鼠族ヲ驅除スルコト此際ニ當リテハ特ニ注意シ鼠族ヲシテ飢餓ニ陥ラシムルノ手段ヲ運ラスコト

(ニ) 前項ノ鼠族驅除ヲ了シタル後家屋内外ノ消毒的清潔法ヲ施行スルニハ尤モ注意周到ナルヲ要スルコト

(ホ) 地方廳及市役所ニ於テハ斃鼠收集ノ方法細菌検査所ノ設置及ビベスト菌發顯ノ場合ニ於ケル鼠族驅除ノ方法ニ關シ指

導監督ヲナスコト

三

一、傳染病豫防ノ第一方法タル初發患者ノ發見ヲ迅速ニスルコト

(イ) 法律ノ命令ニ從ヒ醫師ヲシテ其ノ職責ヲ盡サシメ殊ニ肺炎ノ疑アルモノニハ最モ注意セシムルコト

(ロ) 醫師ニ臨床的診斷法及ビペスト類似ノ疾患ヲ知悉セシムルコト

(ハ) 醫師ハペストノ病理ヲ研究鍊磨シ臨床的診斷ヲ主トシ細菌學的檢斷ハ參考トナスベキコト

(ニ) 下流社會ニ對シ輕微ノ疾患ト雖モ速ニ醫師ノ診斷治療ヲ受クルニ容易ナラシムルノ方法ヲ設クルコト

(ホ) 衛生組合ハ五戸十戸ノ小團體トナシ且ツ當分ノ間可成的其ノ負擔ト責任ヲ輕フシ組合内ノ清潔ニ注意シテ持續實行セ

シメ患者死者ノ有無ニ注意セシムルコト但シ常ニ衛生ニ注意シテ生活ニ上流ナルモノハ之レヲ一組合ト見做シ右ノ組合ニハ加入セシメザルヲ可トス

(ヘ) 埋火葬承認證請求ノ書面ニ添フベキ醫師ノ檢案書ヲ點檢シ急性病殊ニ經過一週間内外ノ死亡者ニシテ疑ハシキ廉アルトキハ豫防委員ノ醫師ヲシテ死後檢案ヲ爲サシメタル後ニアラザレバ埋火葬承認證ヲ交付セザルコト

一、ペスト病毒ノ侵襲傳播及ヒ人體侵入排出ノ徑路蕃殖滋蔓ノ状態等ニ察シ之ヲ既往我が國ニ於ケル事實ニ照シ學理ニ徴シテ以テ豫防實施ノ方法順序緩急等ヲ講究シタル上現行豫防法中新ニペストニ關スル事項ヲ增補改正シ之レガ施行ノ責務者ヲシテ嚴正ニ且ツ親切ニ活用實行セシメラルベキコト

三三



一、自治ノ機關トシテ豫防團ヲ組織シ其ノ擔當區域ヲ定メ且ツ豫  
 防法ノ實施ニ就キテハ可及的其ノ所轄内ノ衛生組合ヲ指導利  
 用スルニ努メ而シテ都市港灣ノ街等ニハ衛生試驗所ヲ設立シ  
 テ菌學上ノ検査ヲ迅速ニ普及セシメ此ノ兩者相携ヘテ相侵サ  
 ズ共ニ各自ノ責任ヲ盡サシムルニ在ルコト

一、檢疫委員豫防委員ハ當分之レヲ常置シ豫防撲滅法實施ニ就テ  
 監督指導ノ任務ヲ盡サシムルコト

如斯主タル鼠族ノ流行ニ向ツテ豫防撲滅ノ法ヲ嚴行スルニ於テ  
 ハ從前當局者ノ採リ來レル方法中殊ニ彼ノ船車檢疫健康診斷交  
 通遮斷乃至ハフキン液豫防注射臨時大清潔法ノ如キハ全然之レ  
 ナ廢棄シ若クハ一大改善ヲナシ徒勞徒費ノ勞力ト費用トヲ轉シ  
 テ他ノ有益ノ途ニ移サンコトヲ望ム但シ此等諸法ノ無用ニシテ

有害ナル理由ノ要領ヲ約述スレバ即チ左ノ如シ

#### 船車檢疫ヲ廢スベキ理由ノ要領

船車檢疫ノ目的ハ交通ニヨリテ來ル病毒ノ侵襲傳播ヲ遮絶スル  
 ニアリ故ニ虎列刺ノ如ク病毒ノ排泄多量且土地流泉等ニ於テ忽  
 ナ繁殖傳播スルモノニハ稍必要ナリト雖モ上記ノ如クベストハ  
 其ノ排泄蕃殖傳播共ニ微弱ナルコト虎列刺ニ比シテ幾百分ノ一  
 ニモ當ラザルノミナラズ其ノ病毒ノ來襲ハ患者ニアラズシテ貨  
 物又ハ病鼠ニ因スルヲ以テ船車檢疫ハ殆ンド無効ナリ故ニ之ヲ  
 廢スルニ若カズ

試ニ我海港檢疫ノ沿革ヲ案ズルニ明治十二年初メテ檢疫停船  
 規則ヲ發シテ一回之レヲ實行シ次デ十五年ニ船舶検査規則ヲ  
 布告セシ以後ハ一ニ同則ヲ用フルコト、ナレリ然レドモ是等

ノ規則ハ共ニ海外惡疫流行ノ報ヲ得テ始メテ臨時ニ實施スル  
 モノナルガ故ニ其奏功殆ンド見ル可ラズ虎列刺ノ如キハ常ニ  
 其關門ヲ破ツテ流行ヲ繰返スユト實ニ五回ノ多キニ及ビヌ是  
 ニ於テ中央衛生會ハ爲メニ之ガ常設ヲ建議セシコトアリ而シ  
 テ二十七年來東洋ノ諸市海港地ニベストノ流行スルアルニ至  
 リ右ノ臨時機關ハ恰モ常設ノ狀トナリ續テ明ニ常設機關ニ定  
 メラレ三十二年ニハ終ニ現行海港檢疫法ノ發布トナリシガ其  
 ノ成績ハ敢テ臨時ト常設トニ關セズ現ニ今回ノベスト侵入ヲ  
 防止スル能ハザリキ蓋シ海港檢疫ノ奏功薄弱ナルハ各國ノ均  
 シク經驗スル所如何ニ之ヲ嚴密周到ナラシムルモ到底十分ノ  
 功カラ望ムベキニアラザルナリ況ンヤ現今檢疫ノ單ニ乗客ノ  
 身上ニ止マリ其搭載ノ貨物等ニ至リテハ毫モ消毒スルコト能

ハザルヲヤ曩ニ明治二十六年支那沿岸ノ虎列刺發生ヲ報シ來  
 ルヤ政府ハ直ニ臨時海港檢疫開始ノ手續ヲ經テ第二豫備金支  
 出ノ御裁可ヲ得翌日直ニ告示セラレントスルニ際シ時ノ井上  
 大臣ハ持重ノ態度ヲ取り其告示ヲ躊躇セシメテ曰ク告示ハ何  
 時ニテモ發スルヲ得ン然レドモ船舶検査ハ大抵利害相償ハザ  
 ルヲ見ル國費多端ノ今日容易ニ如是ノ支出ヲ爲ス可ナランヤ  
 只萬己ムヲ得ザルノ時至ルマデ之ガ費用ハ預リ置クベントカ  
 クテ終ニ檢疫ハ開始セラレザリシニ毫モ虎列刺ノ侵襲ヲ蒙ラ  
 ズ茲ニ豫備金ヲ費消セズ又貿易通商上ニ阻害ヲ加ヘズシテ全  
 ク一舉兩得ノ好果ヲ占メタリキ井上大臣當時ノ意見ハ果シテ  
 衛生上確實ナル主張アリシヤ否ヤヲ知ラズト雖モ海港檢疫ガ  
 其奏功ノ頼ムニ足ラズシテ而シテ之ガ爲ニ失フベキ損害ノ甚

大ナルハ今日モ尙ホ當時大臣ノ見シ所ニ異ナラザルナリ

### 健康診断ヲ廢スベキ理由ノ要領

健康診断ノ目的ハ病毒ノ傳播スルニ先ダナテ之レチ一人一家ニ止ムルガ爲ニ患者ノ發顯ヲ迅速ニスルニアリ故ニ傳染病豫防ノ手段トシテ或ル場合ニ於テハ最モ必要ナリト雖モベストニ在リテハ即チ然ラズ該病ハ患者發顯ノ際ニ其傳染ノ系統ヲ調査シ若シ鼠族間ノ流行ニ由テ副發シタルモノト認ムルトキニ於テ鼠族ヨリ散亂シタル病毒撲滅ノ着手ヲ速ナラシムル間接ノ動機ナルヲ以テ特ニ健康診断ノ爲ニ許多ノ醫師ヲ要セズ上記豫防ノ部ニ列舉セシ所ノ方法ニヨリ患者ノ發顯ヲ速ニスルヲ以テ足レリトス是レ健康診断ヲ不必要トスル理由ナリ

### ハフキン液豫防注射ヲ廢スルコト

ハフキン液注射ノ目的ハ人體ヲ免疫シテ病害ヲ免レシムルニアリ然ルニ該液ノ注射ハ未ダ學者間ニ於テ一般ニ有効ナリト是認シタルモノニアラズ又接種後一週間ハ免疫ノ効力ヲ發動セザルノミナラズ持續的ノ病毒ニ對シ其ノ有効期間ノ短キ法ハ豫防手段トシテ干涉的ニ施行スルモ持續注射ノ煩ニ堪ヘズシテ實行シ難シトス況ンヤ大阪市及湯淺町等ニ於テ注射後免疫期間ニ感染セシモノ許多アルチヤ單ニ人々ノ任意ニ放任スルチ可トスベシ

### 臨時大清潔法實施ハ短期間ニ再三スペカラザルコト

清潔法實施ノ目的ハ土壤及空氣ノ清淨ヲ保持シ病毒培養ノ素因ヲ除去スルニ在リ故ニ鼠族間ノ流行ヲ發顯シタル場合ニ於テハ其ノ部落ニ限り消毒的清潔法ヲ嚴重ニ實施スルノ必要アリト雖モ漠然タル豫防ノ目的ヲ以テ特ニ費用ヲ支出シ之レチ厲行スル

ハ却テ汚物掃除法實施ノ繼續ヲ怠ラシムルノ動機タルニ過ギズ  
斯カル方法ヲ厲行スルヨリハ寧ロ彼ノ汚物掃除法實施ノ監督ニ  
一層注意シ常ニ全市ノ清潔ヲ保タシムルヲ得策ナリトス

交通遮斷及ビ隔離ノ目的ヲ異ニスルヲ以テ潜伏期間之レ  
ヲ施行スルニ及バザルコト

交通遮斷及ビ隔離ノ目的ハ人事ノ交通ニ由リテ病毒ノ傳播スル  
ヲ防止シ一局部ニ於テ之レヲ撲滅スルノ手段ニ外ナラズ然ルニ  
ベストノ性質ハ上來屢々記スルガ如キモノナルヲ以テ右ノ目的  
ニヨリテ之レヲ實施スルノ必要ハ殆ンド存スルナシ即チ茲ニハ  
單ニ消毒清潔法等實施上便利ノ爲ニ一時交通ヲ遮斷シ老若ヲ隔  
離スルモノナレバ敢テ其ノ潜伏期間之レヲ施行スルニ及バズ消  
毒法等實施結了ノ後ハ直チニ自由ナラシムルヲ得策ナリトス

抑モ我が國ニ於ケル傳染病豫防ノコトハ業已ニ二十年ノ久シキ  
ヲ經過スルモノアリ然レドモ其ノ方法タルヤ專ラ病毒既發後ノ  
施設ニアリテ尙ホ未發前ノ準備ニ出ヅル能ハズ唯救急姑息ノ一  
時的措置ニノミ走リテ未ダ根治的施設ニカムルノ違アラザルニ  
似タリ是レ我が國衛生上ノ一大缺點ニシテ防疫事業ニ於テモ常  
ニ失敗スル所以ナリ彼ノ英國都市ノ如キ其ノ未開ノ時代ニ於テ  
ハ亦虎列刺ペスト等猖獗ヲ極メタリシト雖モ一度上下水道ノ工  
事ヲ起シ其他除害條例建築條例ヲ敷キ或ハ勞働者救濟ノ制ヲ設  
ケテ勞働時間ニ制限ヲ立ツル等務メテ其ノ基礎衛生事業ノ改善  
ヲ行ヒシヨリ以後ハ衛生ノ狀態忽チニ一變シテ健康ノ都市ト爲  
リ或ハ時ニ病毒ノ來襲ヲ蒙ルアルモ流行ニ至ラズシテ止ムコ  
ト、爲レリ是ニ於テ歐米諸國競テ此ノ基礎的衛生施設ニ心ヲ盡

クシ今ヤ之レガ設備如何ヲ以テ文明ノ程度ヲ計ルノ尺度ナリト稱スルニ至レリ蓋シ本立ツテ末治ル根本的施設ノ先ツ定マルニアラザレバ凡百ノ臨時措置ヲ以テスルモ畢竟是レ一時ノ彌縫ノミ其ノ功ヤ收メ難ク假令功アルトモ亦久シキヲ得シ歐米各國ガ衛生工事ノ如キ基礎事業ニ向ツテ汲々タル所以ハ固ヨリ其ノ所ノミ我ガ國衛生ノ事業亦之レニ依ルニアラザレバ蓋ンヅ克ク其ノ目的ヲ達スルヲ得ンヤ然レドモ是等基礎的事業ハ皆莫大ノ費用ヲ要スルモノニシテ其ノ竣功モ亦之レヲ咄嗟ノ間ニ望ムベカラズ如今財政困難ノ聲頻リナル我ガ國情ニ於テハ殊ニ开ガ急速ナル實行ヲ望ムコト難カルベシ是ニ於テカ今日ノ策暫ラク臨時救急ノ方法ニツキテ愈々研究ヲ重テ其ノ病毒ノ侵襲傳播蕃殖等ヲ詳ニシテ現行豫防法中ベストニ屬スル事項ヲ增補改正シ之レ

ガ施行ハ同法律ノ規定ニ從ヒ市町村ノ自治體ハ直接其ノ任ニ當リ府縣ハ指導監督ノ任務ヲ盡スノ傍ラ茲ニ基礎事業ヲ企圖スルノ他アル可ラス即チ政府ハ一面臨時措置ヲ爲スト共ニ一面ニハ現行ノ水道條例下水道法汚物掃除法等ノ實施經營ニ力メ更ニ街路規則建築條例勞働者保護法ノ如キヲ制定發布シテ先ツ交通頻繁ナル都市及開港ノ地ニ向ヒ漸次之レヲ實施セシメ人工ヲ以テ其ノ土壤住居飲水等ヲ改善シ殊ニ銳意下流社會ニ公衆衛生上ノ施設ヲ及ボス等衛生ノ基礎事業ニ勇往銳進シテ文明的衛生市街ヲ作ルベシ我ガ今日ノ衛生局ハ又昔日ノ比ニアラズシテ是等ノ計畫ニ當ラシムベキ博士學士ノ人材ヲ抱ヘ居ルノミナラズ是等ノ目的ヨリシテ國費ヲ投シ歐米ニ留學視察セシメシモノスラアルナリ既ニ此ノ目的ヲ有シ人材ヲ有シツ、徒ラニ舊態ヲ株守シ

テ何等ノ經營スルユト無キガ如キハ廢物利用トサヘ唱フル今日ニ於テ恐クハ不權衡ト申スベケレ余輩ハ是レニツキ左ノ意見ヲ有ス不知當局者ハ斯ニ意ナキカ

一市區改正道路法建築條例勞働者保護法ヲ發布シ大阪市其他樞要ナル市ニ對シ漸次之レガ實施ヲ促スベキコト

二水道ヲ布設シテ良水ヲ供給シ下水ヲ改造シテ土地ヲ乾燥清潔ナラシムルノ工業ニ着手スル際ハ下流社會ニ普及スルヲ先キニシ上流社會ヲ後ニスルヲ要ス

三都市開港ノ市ニ於テハ市街ヲ去ル適當ノ地ヲトシ衛生的新市街ヲ建設シテ之レニ勞働者ヲ移住セシメ交通機關ヲ布設シテ往復ニ便ナラシムベシ

四前項移轉ノ爲ニ得タル空地ヲ利用シテ各區内ニ適當ノ公園地

ヲ設クベシ

五衛生設備ノ進歩改善ヲ圖ルニ際シテ最モ必要ナルハ地方ニ衛生技術者ヲ配置シテ地方衛生ノ施設ニ任ゼシムルコトナリトス而シテ此ノ必要ハ將ニ實行セラレントスルモノアリト聞ケリ然レドモ假令此ノ制ヲ設ケラル、モ其人ニシテ適當ナラザレバ畢竟是レ徒法タルニ了ルベシ余輩ヲ以テ之レヲ觀レバ今日之レヲ實施セララル、ニ至ルモ其ノ任ニ當ラシムベキモノ恐クハ數名ニ出デザルベシ故ニ今日ノ措置ハ一方ニ於テ此ノ數名ノ適任者ヲ舉ゲテ最モ必要ナル地方ニ配置シ他ハ更ニ適任者ノ出ヅルマデ延期セシムルト共ニ一方ニ於テハ直チニ技術者養成ノ機關ヲ設立シ以テ其ノ需用ニ供給スルノ策ヲ講ゼザル可ラズ蓋シ此ノ機關設置ノ費目ハ之レヲ右技術者配置ノ費

目中ヨリ割キテ充用スレバ即チ足レルナリ見ヨ往年郡區醫ヲ設置シ若クハ技師設置ノ訓令ヲ發セシモ其ノ結果一トシテ見ル可ラザルヲ是レ皆法成ルモ人ヲ得ルノ道ナキガ爲ノミ殷鑑遠キニアラズ其ノ前轍ヲ踏ムコト勿クハ可ナリ

蓋シ衛生事業現狀ノ振ハザルハ直接責任者ノ自治體尙ホ自營獨立ノ能力ヲ有セザルニアリ是ヲ以テ今日ニ處スルノ道ハ其ノ幼稚ナル自治體ヲシテ速ニ獨立自營ノ能力者トナラシムルノ他アラザルナリ然ルニ現今當局者ノ爲ス所往々ニシテ此ノ方針ニ依ラズ或ハ尙ホ舊時ノ干涉政策ヲ把持シ之レガ爲メニ却テ自治體ノ練習ヲ妨ゲ以テ其ノ獨立心ヲ消磨スルヲ見ル此ノ一事ハ實ニ誤解ノ根本ニシテ今日ノ一大弊タル所以ナリ苟モ此レニシテ改ムル勿クンバ假令其ノ計畫スル所日夜ニ相踵ギ新令ヲシテ兩ノ

如ク降ラシムルト雖モ我が衛生事業ハ畢竟空中ノ樓閣ト均シク其ノ基礎竟ニ定マルノ時アル可ラズ今日ノ防疫ノコト亦此ノ根本的方針ヲ改善シテ後初メテ云々スベシ即チ政府ハ明ニ國法ノ定ムル位置ニ確立シテ其ノ自治體教育ノ任ヲ盡クシ誠意以テ之レヲ導キ之レヲ扶ケ平素ニ在リテ公衆衛生ノ事業ヲ計畫スルト同時ニ個人衛生ノ發達ヲモ企圖スルヲ本トシ斯クテ塵芥汚物ノ掃除ニマレ下水溝渠ノ浚渫ニマレ其ノ施行及ビ持續法ヨリ傳染病院隔離舎ノ設置消毒藥消毒器ノ準備等苟モ衛生上防疫上ニ於テ必要ナリト認ムル事項ハ細大洩ラスコトナク自治體ノ用意ヲ促シ且個人ヲシテ自ラ進ミテ清潔攝生斃鼠ノ搜索ヲ行フニ至ラシメ衛生組長ノ如キハ組内斃鼠ノ搜索急性ノ患者死者アリタルキハ之ヲ區町村役場ニ報告シ市町村ニ於ケル衛生主任ノ如キハ

常ニ死亡統計ヲ調製シテ死者ノ増減ニ注意シ若シ死者ノ増加ヲ見ルアラバ直チニ其ノ原因ヲ探リ亦絶エズ死亡届ニ注目シテ若シ急性病ノ多キヲ認メバ直チニ其ノ原因ヲ索メ聊カタリトモ疑ハシキ者ハ醫師ト協議ヲ遂ゲテ臨機ノ處置ヲ爲シ一面ニハ事ノ大小ヲ量リ監督官廳ニ報告シテ之レガ注意ヲ促ガスノ舉ニ出デシメ或ハ監督官廳ニ於テハ部内一般ノ病者死者ニ注意シ其疑ハシキ形跡ヲ發見スルカ又ハ市町村ノ報告ヲ得タルトキハ直チニ實地ニ臨ミテ之ヲ調査シ苟モ傳染病ノ疑アルモノハ市町村ニ命ジテ相當ノ處置ヲ爲サシムル等力ノ及ブ限り自治體ヲ誘掖督勵セバ其ノ練磨ノ結果終ニ我が衛生事業ノ基礎ヲ確立シ防疫ノ實効從ツテ舉ガルニ至ラン

余輩ハ於是繰返シ言フ當局者ハ須ラクペストノ病性ニ察シ他疫

トノ權衡ニ顧ミ國法ガ規定セル責任ノ分擔範圍ニ從ヒ官治自治ノ任務ヲ明ニシテ豫防方針ノ劃一ヲ謀リ以テ速ニペスト病毒ヲ撲滅シ更ニ周章狼狽ノ轍ヲ履マズ未發ニ豫防ノ實績ヲ收メラシムコトヲ望ム

而シテ近年傳染病ノ益々國土ヲ汚シ衛生行政ノ愈々不振ヲ見ル國家ノ爲メ憂慮措ク能ハズ茲ニ所見ヲ陳ジテ敢テ江湖ノ參考ニ資セント云爾



明治三十四年一月廿八日印刷  
明治三十四年一月卅一日發行

(非賣品)

編發  
輯行者兼

仙石友雄

東京市神田區今川小路三丁目二番地

印刷者

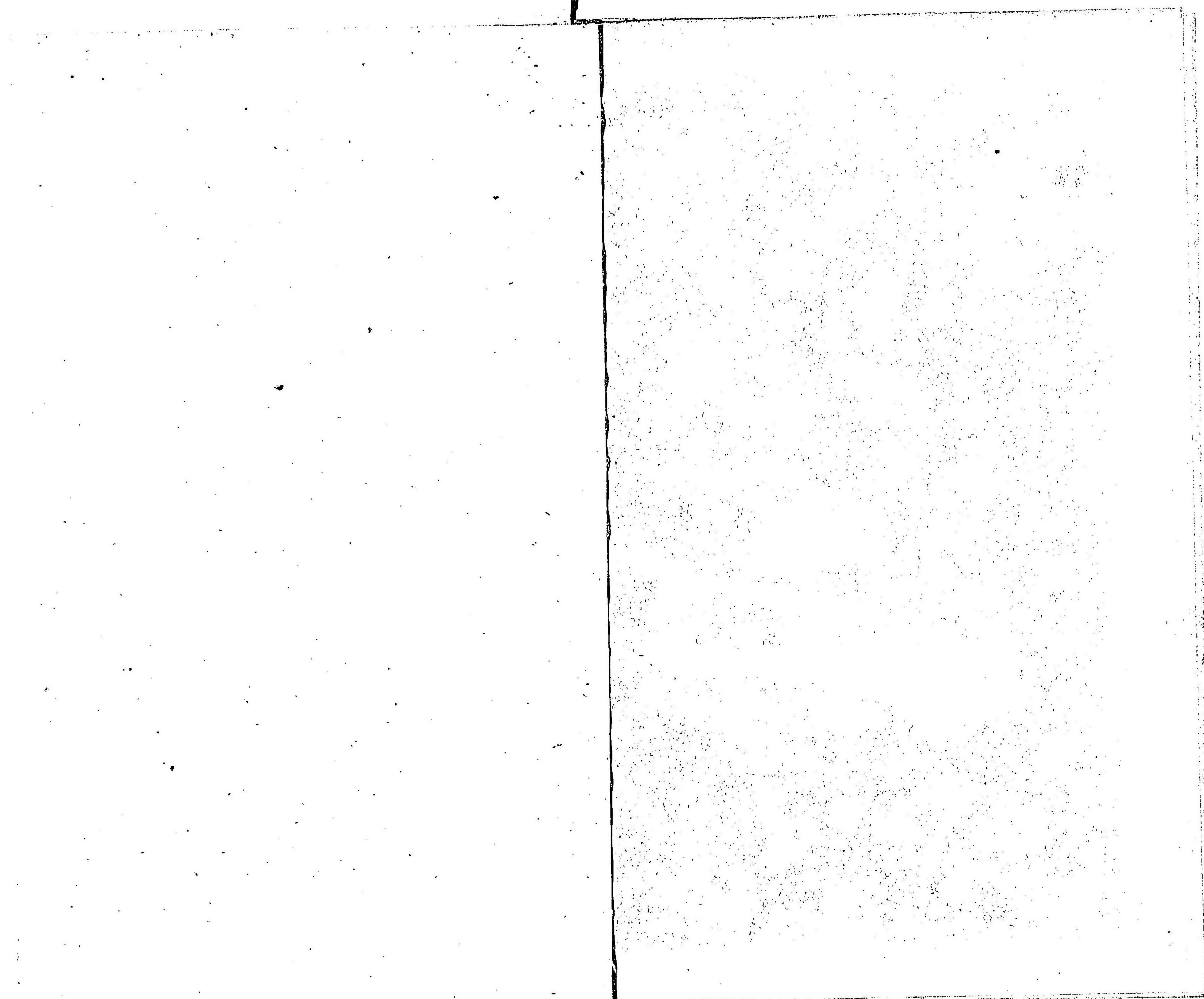
赤羽源治

東京市京橋區築地三丁目十五番地

印刷所

帝國印刷株式會社

東京市京橋區築地三丁目十五番地



60
102

